

## 一般社団法人室内環境学会 2024 年度 第 2 回通常理事会議事録

日 時：2024 年 9 月 24 日（火）16:00～19:30

場 所：事務局会議室／オンライン会議室

出席者

理事：東賢一（理事長）、中島大介、鍵直樹、橋本一浩（事務局長）、小栗朋子（会計）、高木麻衣、  
三宅祐一、森田洋、柳宇、篠原直秀、萬羽郁子、徳村雅弘、嶋崎典子

事務局：二科妃里、色摩操

監事：湯懷鵬、齊藤智

本理事会は総理事数 13 名のうち過半数である 13 名が出席していることから、定款第 34 条により成立した。また同第 33 条により、本理事会の議長は東理事長が務めた。

議事次第：

1. 2024 年度第 4 回臨時理事会議事録 → 承認された。

2. 2024 年度委員会活動報告

広報委員会：例年通り、学会 HP、大会 HP、Facebook などの運営を行い、ニューズレターの配信を実施した。学会 HP に学会創立 30 周年記念のページ、表彰のページなど新たなコンテンツを制作した。（萬羽委員長）

出版委員会：例年通り学会誌を 3 号発刊し、J-stage 及び学会 HP へ学会誌掲載論文のアップロードを行った。副委員長を 1 名から 2 名体制へと強化した。また、学会誌の電子化に関する議論を行い、広報委員会と連携し、学会員に対してアンケート調査を行った。（森田委員長）

事業委員会：例年通り、他団体から後援・協賛依頼の審査を実施した。また、2024 年学術大会にて開催予定の創立 30 周年記念講演会の企画を担当し、個人会員・法人会員に寄付をお願いした（三宅委員長）

財務委員会：例年の活動通り、学会の財務および会計に関する管理を行った。また、学会の財務状況の解析のため、H19 年度以降の決算推移について一覧表を作成し、将来構想 WG に提供した。（小栗委員長）

若手活性化委員会：2023 年学術大会において学生懇談会を開催した。また、若手交流会を企画し、会員の企業に交流会と見学会の開催協力を依頼した（徳村委員長）

社会連携委員会：2023 年学術大会にて機器展示企業を交えた意見交換会を開催した。また、韓国室内環境学会のシンポジウムに講師を派遣した（柳委員長）

表彰委員会：篠原委員長より、学会賞・学術賞・技術賞・研究奨励賞の規程を作成し、広報委員会と連携して各賞の推薦を公募したと報告があった。今年の論文賞については、従来の論文賞選考委員会に選考の協力を依頼することになった。また、査読者賞は従来通り、出版委員会にて選考を行う。

総務委員会：例年の活動通り、学会の事務処理全般を行った。なお今年は理事長選挙の準備も行った（橋本委員長）

学術委員会：例年通り、各分科会活動の支援、2024 年度研究助成金の募集と審査（今年度は 1 件）および 2023 年度研究助成収支報告書の審査を行った。各分科会も活発な活動を行い講演会や共同研究にそれぞれ取り組んだ（高木委員長）

関西支部：日本建築学会近畿支部空気環境部会と合同で講演会および企業見学会を開催した。この講演会にて、吉田精作先生を招待し名誉会員推戴記念講演を執り行った（東理事長）

東北支部：従来から取り組んでいる福島第一原子力発電所近傍の建物における空間線量率分布の調査を行った。また給気口用フィルタによる浮遊粒子除去特性について共同研究を行った（東理事長）

能登半島地震に関連した室内の温熱環境・空気質の改善に関する WG：被災地の避難所や仮設住宅にて空気質等の測定を実施した。また、会員企業から提供された暖房器具や空気清浄機を避難所等に設置した（篠原理事）

新型コロナウイルス WG：能登半島 WG と合同で、避難所における感染対策の補助として空気清浄機の設置を行った（篠原理事）

将来構想 WG：例年の収支赤字予算を改善するために、会費の値上げによる収入改善、学会誌の電子化による支出の改善について検討を行った。また将来的な事務局移転も想定し、事務業務委託費を上げるよう提言した（鍵理事）

### 3. 2024 年度決算報告（暫定）

小栗財務委員長（会計）より 2024 年度第 12 期会計決算（8 月 31 日時点での暫定）が報告された。広告収入が例年より増加したこと、学術大会の収入が大幅な黒字になったこと、創立 30 周年記念講演会寄付金に多くのご寄付をいただいたことから、繰越金は予算を覆し、大幅増加する見込みとのこと。

### 4. 2024 年度委員会活動計画

広報委員会：学会 HP、大会 HP、Facebook の運営やニューズレター配信を例年通りに行う他、出版委員会と連携して学会誌の電子化に取り組んでいく（萬羽委員長）

出版委員会：来年度も学会誌を 3 号発刊し、J-stage や学会 HP に論文およびその他記事の掲載を行う。学会誌の電子化について原案の策定を進める（森田委員長）。

また、委員の作業負担軽減のため、事務作業の一部を外部委託したいとの要望が森田委員長からあり、出版委員会の来年度予算を増額することを承認した。

表彰委員会：部会を組織し、学会賞・学術賞・技術賞・研究奨励賞の受賞候補者を決定していく（篠原委員長）

事業委員会：2024 学術大会にて創立 30 周年記念講演会を開催する。また創立 30 周年記念誌を編集する（三宅委員長）

財務委員会：学会財産の管理、各委員会等への活動費振込、会費請求書の送付、決算書作成などを行う（小栗委員長）

総務委員会：理事会・評議員会・各委員会等の活動補助、外部団体との連絡窓口、外部問合せへの対応、学術大会・講演会の開催補助などを行っていく（橋本委員長）

若手活性化委員会：若手交流会の開催を予定しており、若手の正会員および学生会員に参加を呼び掛ける。また、2024 年学術大会にて恒例の学生懇談会を実施する（徳村委員長）

社会連携委員会：学術大会で企業会員との交流会を企画したいと考えている。台湾室内環境学会のシンポジウムへ講師を派遣する。また、学会 HP の QA の情報を更新していきたい（柳委員長）

学術委員会：各分科会の支援、研究助成金の募集・審査を例年通り行う。また、各分科会も例年通り、セミナー、勉強会、共同研究の実施を予定している（高木委員長）

関西支部：例年通り、集会や見学会を開催する。また他学会と協力しシンポジウムなどを企画したい（東理事長）

東北支部：例年通り、支部メンバーおよび他学会と協力し、共同研究に取り組む（東理事長）

能登半島地震に関連した室内の温熱環境・空気質の改善に関する WG：被災地の仮設住宅等にて空気質等の測定を実施し、仮設住宅の環境向上に繋がる情報を発信していきたい（篠原理事）  
将来構想 WG：学会を持続的・安定的に持続させるため、会費の検討、学会事務の DX 化、会計年度の移行などを検討していきたい（鍵理事）

## 5. 分科会設立申請

化学物質分科会・車室内分科会・微生物分科会・燃焼器具分科会・環境過敏症分科会の設立が申請され、承認された。活動期間は 2026 年度末までとする。

## 6. 2025 年度予算案

東理事長より 2025 年度事業予算案が提案された。概ね例年を踏襲しているが、学会誌編集作業を一部委託するため出版委員会の活動支出を増額した。また能登半島地震 WG の活動を支援するため、WG 活動費を増額した。事業収入を増加するために著作権管理を外部委託し著作権収入を得ることを目指すとのこと。

## 7. 2025 年度事業計画案

東理事長より 2025 年度事業計画案が提案された。今年度方針を概ね継続する他、会計年度および会費の見直しを含めた事業収支の改善に取り組んでいく旨が説明され、了承された。

## 8. 学会誌の電子化への意向調査

萬羽広報委員長より、全会員を対象に実施したアンケート「学会誌の電子化への意向調査」の結果が報告された。学会誌を電子版のみとし冊子体を廃止することに関しては、賛成 78%・反対 14%・どちらでもない 13%、であった。冊子体を残し有料で販売する場合は、購入しない 68%・購入する 4%、価格次第で購入する 28%、であった。この結果を受けて、理事会は電子化を進めることを決定した。冊子体の購入希望者への対応は引き続き検討することになった。

## 9. 創立 30 周年記念講演会準備状況

三宅事業委員長より 2024 年学術大会にて開催予定である創立 30 周年記念講演会の準備状況が説明された。開催資金を確保するため寄付を募ったところ、9 法人、2 個人から寄付の申込があり、予定通り開催される見込みとのこと。記念冊子の準備も進めており、今後、歴代理事長・会長に原稿の執筆依頼をする予定。

## 10. 2024 年学術大会準備状況

鍵副理事長より 2024 年学術大会の準備状況が説明された。口頭発表が 86 演題、ポスター発表が 93 演題の申込があり、過去最多の発表者数となる見込み。分科会報告は要旨集での誌上発表とすることになった。評議員会は 30 周年記念講演の直前に開催することとなった。

## 11. 2025 年学術大会について

東理事長より、2025 年学術大会の開催候補地として北九州市が推薦された。今後、森田理事を中心に九州支部にて検討することとなった。

## 12. 新規入会者の承認

事務局より 2024 年 6 月～2024 年 9 月の入会承認者 51 名（正会員 17 名、学生会員 33 名、法人会員 1 社）のリストが報告された。また、最近の入会希望者 3 名（正会員 3 名）のリストが示され、承認された。

### 13. その他

- ・会員動向として、2024年9月20日時点で正会員381名、法人会員58社（団体）、学生会員93名、シニア会員7名であると報告された。
- ・牧野国義先生を名誉会員に推戴するよう、東理事長から推薦があった。
- ・寄付金募集要項、寄付申込書のフォーマットが作成された。
- ・2024年度永年賞は対象者無し。

以上

署名欄

東 賢一

印

中島大介

印

鍵 直樹

印

橋本一浩

印

小栗朋子

印

高木麻衣

印

三宅祐一

印

森田 洋

印

柳 宇

印

篠原直秀

印

萬羽郁子

印

徳村雅弘

印

嶋崎典子

印